

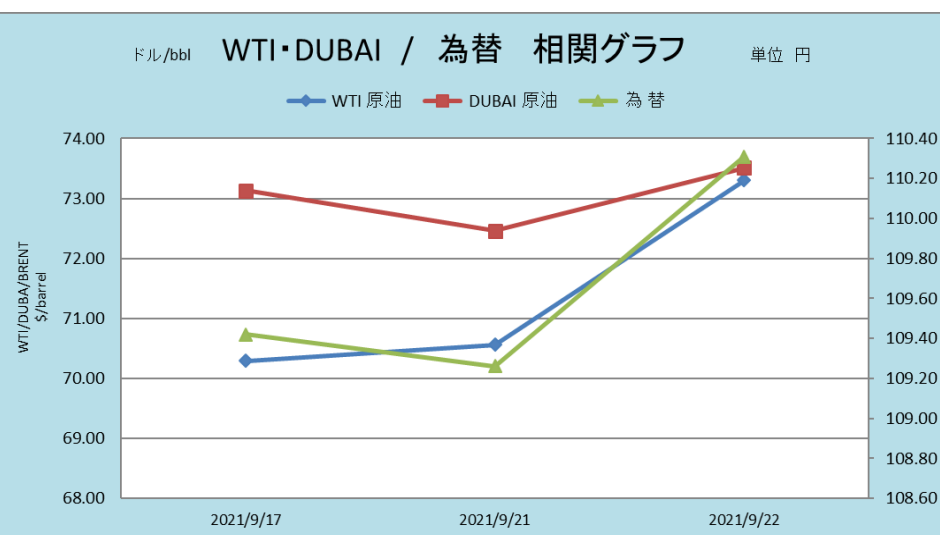
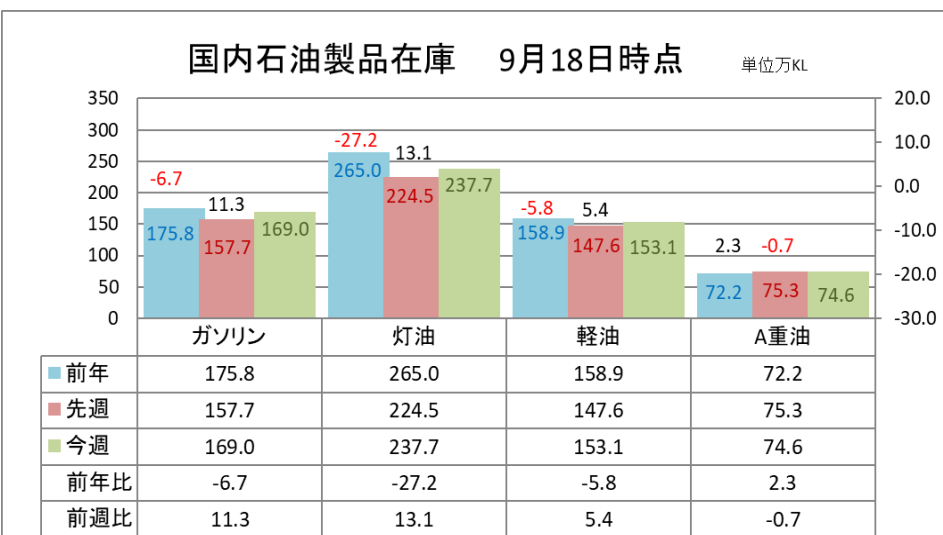
イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/9/24作成 (株)新出光

【概況】<一時下がるも、上昇要因相次ぐ>

- 17日、米メキシコ湾岸を二つのハリケーンが直撃した影響で停止していた産油関連施設の再開が徐々に進み、供給逼迫懸念が後退したことやEIA発表の原油在庫の大幅減少も引き続き上昇要因となりました。
- 20日、巨額債務を抱え経営危機に陥った中国の不動産開発大手、中国恒大集団の先行き不安を背景に世界的に株安が進行し、株式と並んでリスク資産とされる原油も売られました。しかし、「アイダ」被害からの復旧作業が年末までかかるとの報をきっかけに供給逼迫懸念が再燃したことは下支え要因となりました。
- 21日、中国恒大集団の経営危機を受けた過度のリスク警戒感が後退しました。ただ米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果や官民による週間在庫統計の発表を控え、もみ合う展開となりました。
- 22日、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した週報によると、米原油在庫は350万バレル減少し、市場予想通りに7週連続のマイナスとなりました。ガソリン、ディステレート(留出油)もそろって在庫を取り崩しています。また、OPECプラスは8月から生産量を日量40万バレル増やすことで合意したものの、コロナ禍で設備投資やメンテナンス作業が滞り、生産目標に届かない国があると伝わったことも需給引き締め観測を後押ししています。
- 23日、米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和の縮小開始が11月にも決定されると示唆されたほか、利上げ開始時期も前倒しされました。そのことが米景気の回復の足取りが順調であると受け止められ、米株式相場が大幅上昇、原油も買われる形となりました。

9月24日 17:00現在 WTI原油 73.31ドル 為替 1ドル 110.44円



	次回元売変動予測		【製品卸価格】<月間リンク玉最後の消化売り>
	9/30~	元売変動予測	
ガソリン	➡	+0.5~+1.0	<p>《今週》今週の元売り仕切り改定は3社ともに「+1.5円」の値上げ改定でした。おおよそ1.0円程度の値上げが市況に浸透しましたが、月間リンク玉の販売が再び活発になったことで、取引される価格帯が広がり、取引相場は二極化しています。先週とは打って変わり、月間玉が市況を牽引し、週間玉がそれを追随する形となっています。</p> <p>《9月25日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「+0.5~+1.0円」の値上げ改定予測です。次回予測は原油調整金がか味されることを前提とした数字ですが、調整金は「+0.2円」程度ですので、大きな影響はありません。週末の市況は原油や先物相場の上昇により、タンク玉や先物玉では値上げが浸透しています。製油所周りも徐々に枠消化が進んだディーラーが見受けられますので一部値上げをしていますが、それほど市況の変化はなく、月内最後の週末で枠消化のため価格を変更していないディーラーが多いことも事実です。週末は次回改定の値上げやリセット値上げ前の仮需としてオーダーが集まっている様子が窺えます。週明けは各地区で玉が薄くなった油種の値上げが見られそうです。</p>
灯油	➡	+0.5~+1.0	
軽油	➡	+0.5~+1.0	
A重油	➡	+0.5~+1.0	
LSA	➡	+0.5~+1.0	

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<廃プラスチック油化事業>

ENEOSと三菱ケミカルは7月、三菱ケミカルの茨城事業所を拠点にプラスチック油化共同事業を開始することを発表しました。取り組みの概要としては、外部から調達した廃プラスチックを新設備にて化学的に液化し、油化処理を行い、製造した油(リサイクル生成油)は、ENEOSと三菱ケミカルの既存設備である石油精製装置とナフサクラッカーの原料として使用し、石油製品や各種プラスチックへ再製品化することで、高効率なケミカルリサイクルの実現を目指しています。廃プラスチックをリサイクルする中で、油化処理をするケミカルリサイクルの割合は全体の3%とまだまだ低く、事業規模が確保できていないことや高コストという面で実用化には課題が多く残っています。今回国内最大規模となる設備を整え、実証を進めることで脱炭素社会における次世代事業としての確立を図っていきます。

[出典]

- ① https://www.eneos.co.jp/newsrelease/20210720_01_01_2006437.pdf
- ② <https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00155/091700038/>